



〔建設技術者のための

地形図判読演習帳 初・中級編〕

井上公夫・向山 栄著

古今書院発行 A4版82p.

2007年5月1日刊行，定価3,600円(税別)

ISBN978-4-7722-5207-2 C3051

地形は，特殊な分析機器や難しい数学を使わなくても，現代科学の俎上に載せることができる数少ない自然現象の一つです．そのせいか地形学は自然科学の中では最も敷居が低い分野と言って良いでしょう．しかし，科学や技術の対象として地形を見るには，やはり基礎技能の習得と思考訓練が必要であることは言うまでもありません．

さて，本書はこれから科学・技術の対象として地形を見ることを志す人のための実戦的入門書です．実戦的とは，古典的教科書で繰り返し語られてきたデービスの侵食輪廻説にもベンクの地形分析に触れることなく，現実にわが国で最近生じた地形変化現象＝2004年新潟県中越地震に関連する土砂移動＝を切り口に，読者に図上演習を繰り返し行なわせることを通じて，否が応でも現代応用地形学の基礎技能を読者に身につけさせようとする，著者らの手法を指します．このような教科書が出現したこと自体，地形学が少数の専門研究者の学ではなく，多数の技術者によって現場で用いられる実用技術として位置づけられるようになった現状を反映したものと私は捉えます．ここまで実戦に徹した教科書は，長年現場技術者として応用地形学の第一線で働いてきた著者らによって初めて執筆しえたのではないのでしょうか．

本書は中越地域を対象として，地形の科学的認識にとって最重要な基礎である地形図と実在の地形の対応関係を理解するための訓練から始まり，地形図と空中写真から様々な情報を読み取り・加工する訓練を経て，土砂移動現象の実例を基に読者を山地の応用地形学の世界へ招待する，という構成をとります．この構成は，たとえば「尾根」という言葉を知らない初学者を相手に，非常勤講師として短期間で必要

建設技術者のための

## 地形図判読演習帳

初・中級編

井上公夫・向山 栄著



古今書院

最低限の基礎技能を修得させるために苦勞を重ねてきた著者の経験を下地に工夫されたものと私は考えます．全体で80ページ余りという短い本にこれだけの内容を詰め込んでいることは，徹頭徹尾忙しい技術者や授業時間の少ない大学の実情に配慮したものでしょう．ムシのいい願望と言われようとも，とにかく実地で役立つ技能を手早く修得したい・させたいと願う人に本書はうってつけです．本書の内容を十分に理解できたなら，地理学・地質学科出身者が先輩技術者から「お前，学校で何やってきたの？」と皮肉られる恐れは(山地の応用地形学に関する限り)大幅に減るでしょう．また，本書は基礎から最近の調査事例までをコンパクトにまとめているため，砂防工学関係者が応用地形学的を独習するには手ごろな本ではないのでしょうか．特に工学面から留意すべき問題を

地形種ごとにまとめていることや斜面崩壊発生場と地形種の関連をまとめた後半部分は、いろいろな場面で有用と言えるでしょう。

本書は初・中級編と銘打ってあるとおり、既に十分な経験を積んだ技術者・研究者を対象としたものではありません。しかし、たとえば航空レーザ測量による地形解析など最新ツールの扱い方の紹介や、地形分類図等基礎図類の整備状況に関する記載は、地形学の専門家でも再度読み直してみると新しい発見があることでしょう。さらに中越地震に関係する土砂移動現象を総合的に概説した書として、分かりやすい上に読み応えがあり、その点で単なる入門書の域を大きく超えているといえましょう。

2004年新潟県中越地震は、砂防・地すべり関係者に大きな影響を与えました。斯分野において応用地形学が今後どのように貢献できるか、という問いかけは著者らのみならず地形学を学ぶ多くの人に投げか

けられたものと私は感じています。著者らがあえてこの地震被災地域を題材として防災地学の教科書を執筆した背景には、この問いに向かい合おうとする姿勢があるはずです。また、著者はコラムの中でそれとなく被災地へのまなざしや社会と技術のつながりについて読者との対話を試んでいます。災害研究の現場にあつては単に理工学的な成果だけでなく、被災地住民への配慮が常に求められます。こうしたいわば技術者倫理的な配慮を含めて、本書は大学教育や実務家の独習のための教材・副教材にふさわしいもの、と私は思います。

なお、本書は「地質ニュース625号」の書評で紹介した『土砂災害の地形判読実例問題 中・上級編』（2006年7月発行）の姉妹編です。本書で地形図の読図（作図）法をマスターされた方は、『中・上級編』の実例問題も読破されることをお勧めします。

（地質情報研究部門 小松原 琢）